

ウチの教授

上智大 鈴木雄雅さん

豪メディアに興味尽きず

1978年にオーストラリア・シドニー大へ留学して以来、同国のジャーナリズムを研究。「留学当時も今も、日本人では唯一の研究者」と苦笑する。

発足から携わってきた学際的研究組織「オーストラリア学会」(事務局・東京都新宿区)が今年25周年を迎え、世界的にも初の国際大会を7月、上智大で開催。日豪に加え、中国、タイ、スペインからさまざまな分野のオーストラリア学研究者が一堂に会す中、ホスト役として奔走した。「欧米各国がアジア重視を表明し、豪州自身も『アジアの一員』と強調する今、オーストラリアのメディアが世界情勢をどう読み解いていくか、興味が尽きません」

他大学に先駆け、多くの留学生を受け入れてきた上智大で教壇に立ち30年。現在のゼミ生も、韓国、中国、台湾などからの留学生が多くを占める。

「ジャーナリズム研究の特性上、外交



すぎき・ゆうが 1953年生まれ。新聞学博士。上智大文学部新聞学科講師、助教授を経て、96年から現職。新聞学科長、文学研究科委員長などを歴任。

的にセンシティブなテーマを取り上げる機会もありますが、中立的な立場で考え、発言し合えてこそ学問の場。違いを認める難しさを理解できただけでも、海外で学ぶ意義は大きい」

留学で生涯の研究テーマと出合った自身の経験からも、日本の学生の「内向き志向」が気がかりだ。

【上杉恵子】